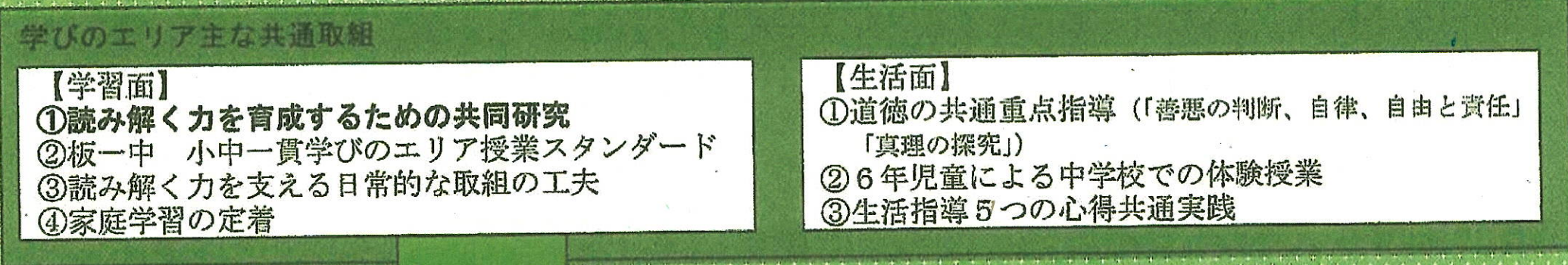


学びのエリアで目指す子ども像 「自律と自立」

なぜだろうという「問い」を常にもてる子ども



研究主題

「未来を自らの力で切り開く確かな学力を育む指導の工夫」
～義務教育9年間をつなぐ「読み解く力」の育成を通して～

【研究のねらい】

全ての教科等に関わる基礎的な能力である「読み解く力」を育成し、一層の学力向上を図っていく。

【研究仮説】

多くの仕事が AI に代替されると予測される将来にあっても、AI が苦手とする「読解力」を子どもたちにしっかりと身に付けさせることで、AI 時代においても自らの力で未来を切り開いていける確かな学力を子どもたちにつけさせることができる。

- 【研究方法】**
- ① 学びのエリアにおける合同授業実践、合同協議会（4校合同）
 - ② 学校ごとの単独授業実践、協議会
 - ③ 授業実践（5教科＋実技教科）
 - ④ 「読み解く力」の6つの視点を踏まえた授業改善
「係り受け解析」「照応解決」「同義文判定」「イメージ同定」「推論」「具体例同定」
 - ⑤ 「読むこと」「書くこと」の重視（毎時間取り入れる）
 - ⑥ 朝学習等を活用した読み解く力を支える日常的な取組の工夫
・視写、読書、音読、語彙の習得、新聞活用、作図、校閲等
 - ⑦ RST、MIMの活用（実態把握・効果検証）
 - ⑧ 児童の学びのスキルに関するコホート調査の活用